4ねん そうごうてきな がくしゅうの じかん ／ ぜんぶで10じかん

木曽川エコ新聞（しんぶん）を つくろう

きみたちは、きょうから**新聞記者**です。
木曽川町のことを調べて、**お家の人と学校のみんな**に伝えます。

ゴール

班（はん）で1まい、本物の新聞をつくる



木曽川エコ新聞

4年2組 3班
2020年11月9日
お家の人と木曽川町に住む人へ

分別が町を守る

市環境センターを見学　1日に200tのごみ

十月三日、わたしたち四年二組は、一宮市環境センターを見学した。木曽川町をふくむ市内から運ばれるごみは一日に約二百トン。分別のしかたで、はたらく人の安全が変わることが分かった。

わたしたちは、ごみを正しく分けることで、はたらく人の安全が守れると考えた。

見学したしょりしせつでは、大きなクレーンが一回で三トンのごみをつかんでいた。もえるごみをためるピットは、四階だてのビルとおなじくらいの深さがある。

はたらく中村さんによると、一日に運ばれてくるごみは約二百トン。分別をまちがえたごみが入ると、機械が止まってしまうことがあるという。

わたしたちは、ごみを正しく分けることで、はたらく人の安全が守れると考えた。

（たろう）

10月3日、市環境センターでごみをつかむクレーン

一宮市のごみの量（1か月）

出典：一宮市ホームページ（2020年9月）

ラベルをはがそう

10月3日、家でペットボトルのラベルをはがすようす

ラベルをはがすと、ペットボトルは資源に生まれ変わる。

ペットボトルは、ラベルとキャップをはずしてから出す。市のホームページによると、はずしていないものは、資源として生まれ変わりにくくなるそうだ。

家でためすと、三十秒でできた。ラベルをはがすと資源に生まれ変わる。

（はなこ）　分別のくふう

プラは資源の日に

プラスチックは「資源」の日に出したほうがよい。

市が配っている「ごみ・資源の分け方」のパンフレットによると、プラスチックは「資源」の日に出すことになっている。

社会科資料室にも、同じことが書いてあった。

（けんた）　分け方のきまり

一週間で十二キロ

家のごみは、分け方をかえるだけでへらせる。

わたしの家で一週間に出たごみをはかると、十二キログラムだった。そのうち、資源になるものが5キログラムもあった。

家のごみは、分け方をかえるだけでへらせると分かった。

（みゆ）　わたしの家のごみ

はたらく人に聞きました

市環境センター　中村さん／ごみを処理する仕事

「分別をしてくれると、機械が止まらず、安全に仕事ができます。みなさんの一手間が、わたしたちを助けています。」

わたしたちの主張

わたしたちは、まず家のごみの分け方を見直すことにしました。木曽川町のみなさん、ペットボトルのラベルをはがして、資源ごみに出してください。小さな一手間が、はたらく人を守ります。

調べ方：市環境センター（10月3日）／市の「ごみ・資源の分け方」パンフレット／一宮市ホームページ（10/8）　（よく見られている方法で取材）

編集後記：取材でみんなのことを、たくさん書けました。

取材・編集　たろう（取材リーダー）　はなこ（写真リーダー）　けんた（見出しリーダー）　みゆ（グラフリーダー）

アプリに書くと、
そのまま新聞の形になります。

さいごはA4のかみ1まいに印刷して、
読み合って、家に持って帰ります。

なにを しらべる？

社会科で べんきょうした中から、1つえらぶ

ごみの問題（もんだい）

すてたごみは、どこへ行く？ 分け方のきまりは？ へらすには？

水の問題

水道の水は、どこから来る？ 使った水は、どこへ行く？

自然災害（さいがい）の問題

木曽川があふれたら？ 地震がきたら？ どこへ、にげる？

★ お家の人や学校のみんなに、いちばん伝えたいことは何かな。そこから決めよう。

10じかんの ながれ

調べて、書いて、直して、仕上げる

1
テーマを決める
きょう。何を調べるか、だれに伝えるかを決める

→

2
書き方を知る
強い記事のつくり方をおぼえる

→

3〜10
取材(しゅざい)→ノート→入力→推敲(すいこう)
これをくり返して、10時間目に完成

「**推敲**」＝ 書いたものを**読み直して、直すこと**。記者がいちばん大事にしている仕事です。

チームの かたち

3〜4人の班で、1人1本ずつ記事を書く



トップ記事

1本目。いちばん大きくのる記事。写真も大きい



わき記事 ②③④

のこりの人の記事。小さめにのる



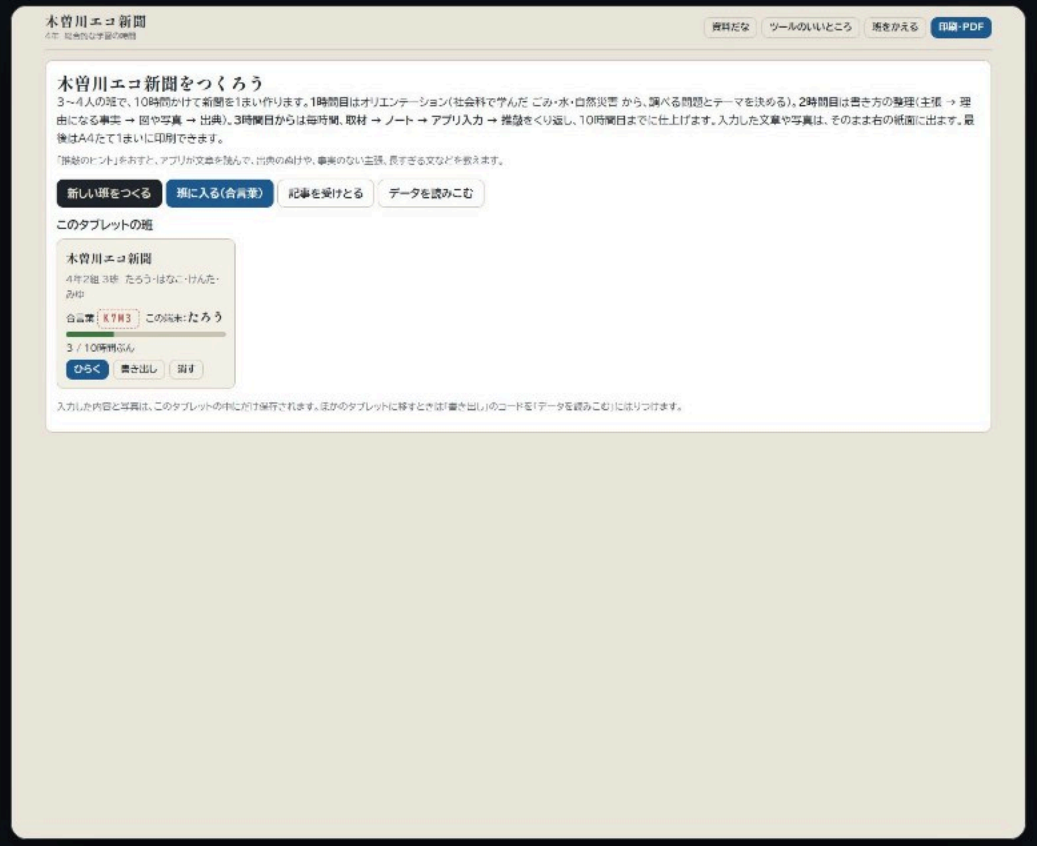
割り付け

何本かの記事を、1まいの紙にならべること。これも新聞のしごと

だれがどの記事を書くかは、班で話し合って決めます。**自分の記事は、自分のタブレットで書きます。**

アプリの ひらき方

ポータル → 4年 社会科 → 総合のカード



- さいしょの人が「**新しい班をつくる**」→ **クラス**をえらぶ
- 3けたの**合言葉**（あいことば）（れい：203）が出る → ノートに書く
- ほかの人は「**班に入る**」で**クラス**をえらび、合言葉を入れる
- さいごに**自分の名前**をえらぶ

記事の 書き方

本文は はじめ → 中 → おわり

① **はじめ**
いちばん言いたいことと、そのわけ

→

② **中**
見たこと・聞いたこと・数字をならべる

→

③ **おわり**
もう一度、みじかくまとめる

→

＋ **図や写真と出典（しゅってん）**
どこで調べたかを書く

「ごみはへらしたほうがいいと思います」だけでは、読む人はなっとくしません。
②の「中」が、きみの記事をささえます。

いちばん 大事な やくそく

「一宮市のホームページによると、もえるごみは1か月で1200トン」

どこで調べたかを書くことを「出典を書く」といいます。
これがないと、本物の新聞では使ってもらえません。

ノートにメモするときから、「どこで・だれに」を書いておこう。あとでは思い出せません。

調べる どうぐ

どの道具を使うかは、自分で決める

インターネット

市や県のホームページ。数字が見つかる

AI

むずかしい言葉をやさしく。**数字はそのまま使わない**

資料(しりょう)だな

一宮市の本物のチラシ・パンフレット40点

見学・インタビュー

自分の目と耳で確かめた、ここだけの話

はかり・カメラ

家のごみの重さ、ラベルをはがす時間、同じ場所の朝と夕

本・資料集

まとまっていて、じっくり読める

★ 自分ではかった・聞いた事実は、だれも持っていない宝ものです。紙面に「取材バッジ」が出ます。

3じかん目

同じ問いを、3つの方法でくらべる



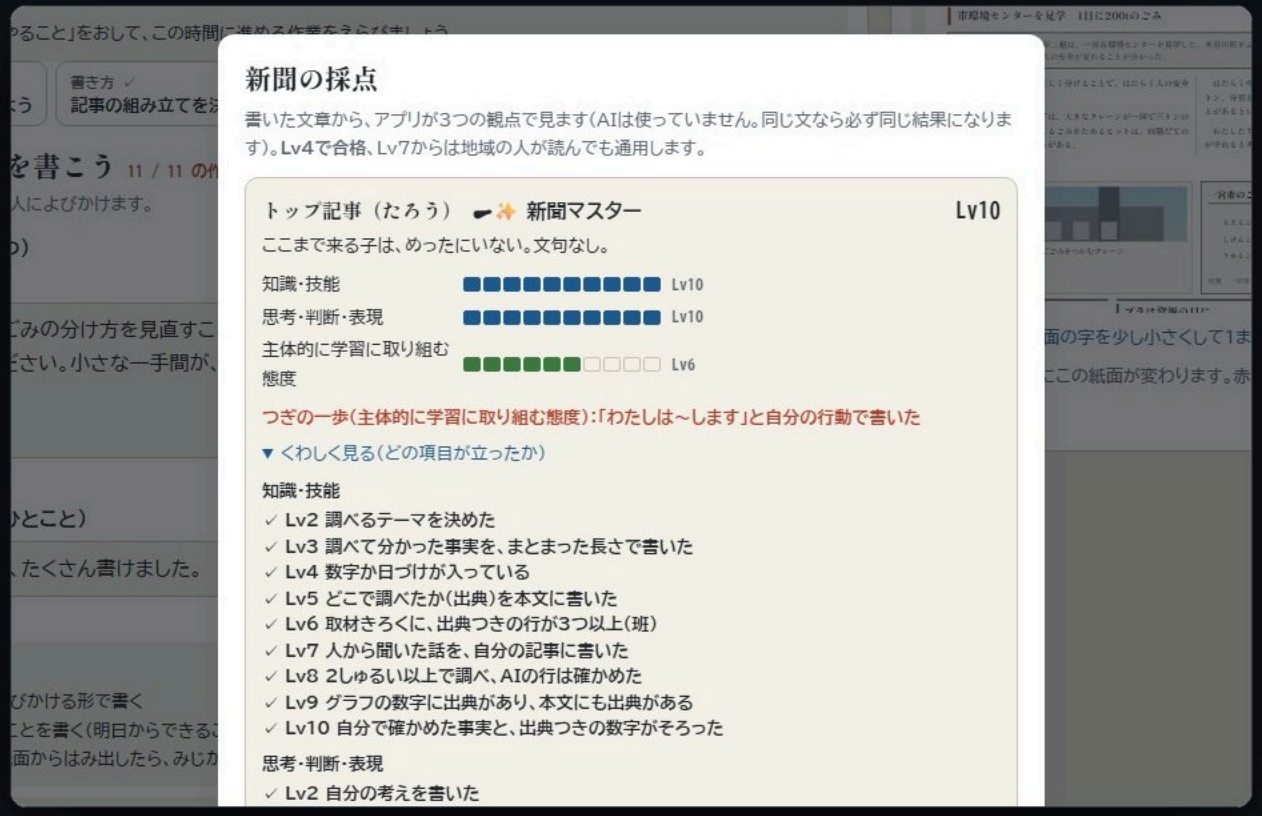
「一宮市のもえるごみは、1か月にどれくらい？」

- AIで聞く
- 市のホームページで調べる
- 市のパンフレットで調べる

> 答えがちがったとき、
> きみはどれを信じる？ それはなぜ？

アプリが 手つだってくれる

推敲（すいこう）のヒントと、採点（さいてん）



- 赤 ＝直したほうがよいところ
- 青 ＝もっとよくなるところ
- Lv4 で「📝 記者」＝ **合格**
- Lv7 から、町の人が読んでも通用する記事



点は「いまの記事の形」を見たもの。直せば、すぐ上がります。

きょう やること

さわってみよう

1
班をつくる
クラス・班の名前・メンバー

→

2
合言葉をメモ
ノートの表紙に書いておく

→

3
自分の名前をえらぶ
自分の記事が書けるようになる

→

4
テーマを決める
ごみ・水・災害から1つ

> 右がわの紙面を見てみよう。入力すると、その場で新聞が組み上がっていきます。

記者の やくそく

3つだけ、まもること

- ✓ 数字や調べたことには、**「どこで調べたか」**を書く
- ✓ 写真に人がうつるときは、**その人に聞いてから**
- × AIの答えを、**確かめずにそのまま書かない**

> 新聞は、たくさんの人が読みます。**まちがいをのせると、読んだ人がこまります。**
> だから記者は、**2つ以上の方法で確かめて**から書きます。